

## (2) 動物

### ア 動物相

#### ア) 調査事項

調査地域に生息する哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類の種名及び分布状況とした。

#### イ) 調査範囲

現地調査の範囲は、実施区域内及びその周辺500m程度の範囲とした。調査範囲は、図5-2-1-10-8に示すとおりである。

#### ウ) 調査方法

既存資料調査及び現地調査により行った。

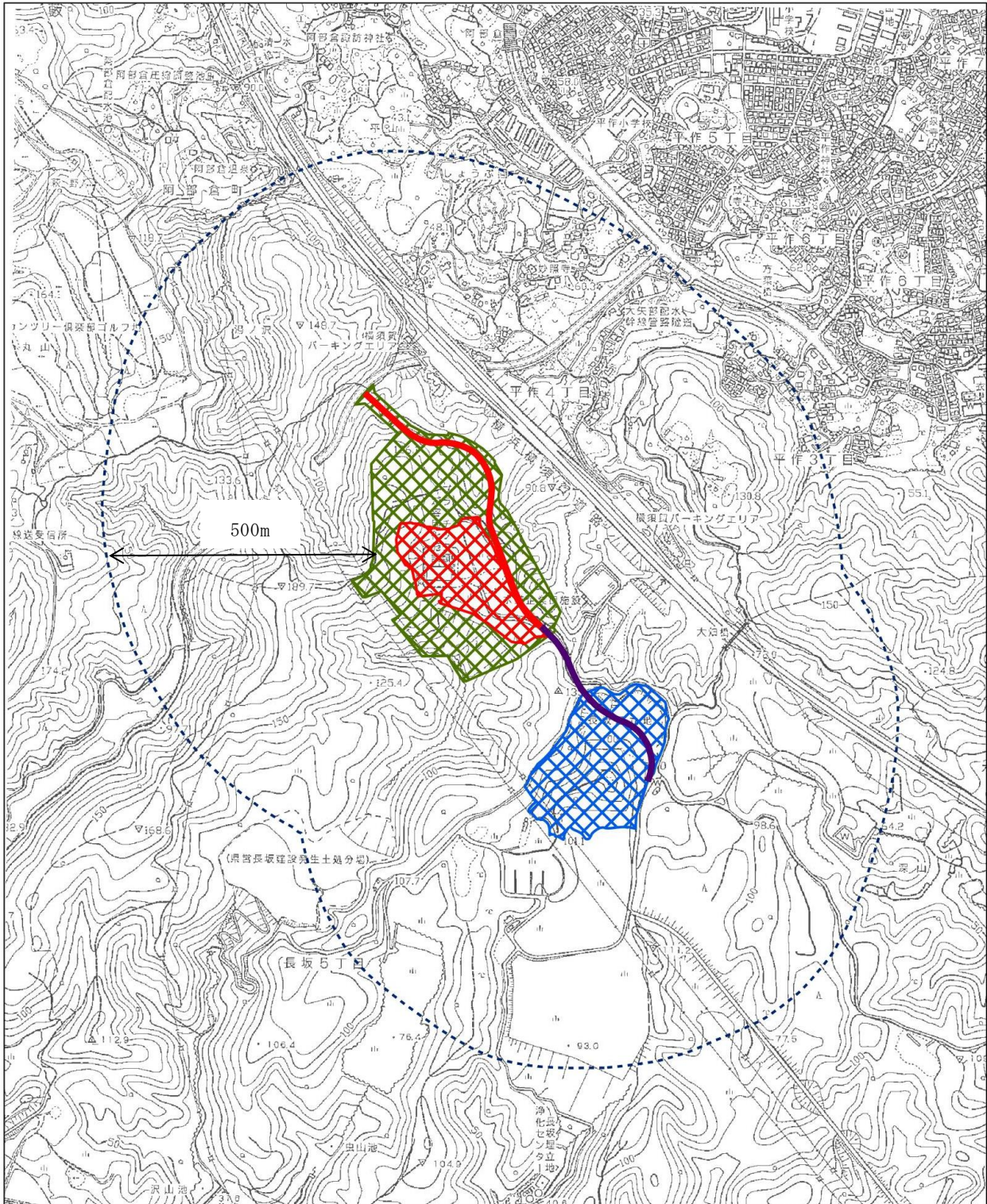
##### a 既存資料調査







横須賀市に生息する動物について、既存資料の収集を行い、記録種を整理し、あわせて表5-2-1-10-37 (P. 428) に基づき、重要な種等について抽出した。

収集した既存資料は、表5-2-1-10-18に示すとおりである。

表5-2-1-10-18 動物既存資料一覧

番号	資料名	発行者	発行年
①	「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物調査分布図 神奈川県」	環境庁	昭和56年
②	「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」	環境庁	昭和63年
③	「地域環境評価書 －三浦半島南部地域－」	神奈川県環境部	平成2年
④	「第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 (両生類・爬虫類)」	環境庁自然保護局	平成5年
⑤	「生物多様性調査 動物分布調査 報告書 (両生類・爬虫類)」	環境省自然環境局 生物多様性セ ンター	平成13年
⑥	「横須賀市芦名地区産業廃棄物 最終処分場建設事業 環境影響予測評価書」	神奈川県	平成12年
⑦	「Y-HEART計画基盤整備事業 環境影響予測評価書案」	西武鉄道株式会社	平成12年
⑧	「第6回自然環境保全基礎調査」	環境省	平成15年～ 17年
⑨	「平成23年度 かながわ環境整備 センター 環境保全対策（動物・植物）等 業務委託報告書」	神奈川県環境農政局 U-Landscaps Design株式会社	平成24年



- 凡例
-  : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
  -  : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))
  -  : 発生土処分場
  -  : 調査範囲
  -  : 新設搬入道路
  -  : 既設改修道路

注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

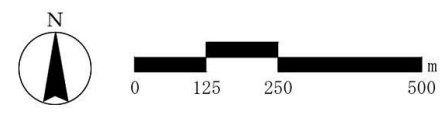


図 5-2-1-10-8 調査範囲 (動物)

b 現地調査

現地調査の調査内容は、表5-2-1-10-19に示すとおりである。

表5-2-1-10-19 動物現地調査内容

調査項目		調査時期・回数	調査方法
動物相	哺乳類	春、夏、秋、冬：各1回	直接観察法（生体、フィールドサイン、鳴き声他）、トラップ法（シャーマン式）、無人撮影法、バット・ディテクターによるコウモリ調査
	鳥類	12～2月及び5～7月：各2回 8～11月及び3～4月：各1回	直接観察法（定点センサス法、ルートセンサス法、夜行性鳥類の調査他）
	爬虫類	春、夏、秋、早春：各1回	直接観察法
	両生類	春、夏、秋、早春：各1回	直接観察法、卵塊・幼生調査、鳴き声調査
	昆虫類	4～5月及び6月：各2回 7～8月及び9～10月：各1回	直接観察法、ビーティング法、スウィーピング法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法

a) 哺乳類

i 直接観察法

調査範囲は、図5-2-1-10-9（P. 398）に示すとおりである。

調査範囲内の水際、小径、土壌の柔らかい場所、草むら、樹林地内等の生息、出没の予想される場所を任意に踏査し、生体、鳴き声及び足跡、糞、食痕、巣、爪跡、抜け毛、掘り起こし等のフィールドサインを確認した。フィールドサインを確認した場合は、写真撮影を行い、大きさ等を記録した。

夜間に、コウモリ類が発する超音波をバット・ディテクターによって検知する生息確認調査を実施した。

ii トラップ法

トラップを設置した地点の環境の概要は、表5-2-1-10-20に示すとおりである。また、調査地点は、図5-2-1-10-9に示すとおりである。

フィールドサインによる確認が困難なネズミ類やモグラ類等の小型哺乳類を対象としてトラップ（罠）による捕獲調査を実施した。調査地点は3地点（T-1～T-3）設定し、1地点あたりトラップ（シャーマントラップ）20個を設置した。トラップは、一晩設置し、翌朝捕獲状況を確認した。誘引餌にはピーナッツと魚肉ソーセージの2種類を使用した。

表 5-2-1-10-20 トラップ設置地点の環境概要

調査地点	環境概要
T-1	実施区域内の樹林環境を代表する地点として、実施区域内（宅地の造成）に設定した。主にコナラ、オオシマザクラが多く、林床にはアオキ等が生育する。
T-2	実施区域内の樹林環境を代表する地点として、実施区域内（宅地の造成・新規搬入道路）に設定した。主にオオシマザクラ、エノキが多く、林床にはチヂミザサ、セイタカアワダチソウ等が密生する。
T-3	実施区域内の草地環境を代表する地点として、実施区域内（発生土処分場）に設定した。ススキ等が繁茂する。

iii 無人撮影法

夜行性や警戒性の強い種の確認のため、赤外線センサーを備えた自動撮影装置（センサーカメラ）を設置した。カメラは哺乳類が頻繁に往来する「けもの道」などに設置し、撮影範囲内にソーセージなどの誘引餌を置いた。設置箇所は、トラップ3地点（T-1～3）付近とした。

b) 鳥類

i 直接観察法

調査範囲を任意に踏査し、鳥類を記録した。

また、フクロウ類等の夜行性鳥類を対象とした夜間調査も実施した。

ii ルートセンサス法

調査ルートは、図5-2-1-10-10 (P. 399) に示すとおりである。

設定した3ルート (R-1~3) を時速約2kmで歩き、ルートの片側25m、計50m幅の範囲に出現する鳥類を記録した。調査は、鳥類が活発な早朝に実施した。

iii 定点センサス法

調査地点は、図5-2-1-10-10 (P. 399) に示すとおりである。

見通しの良い場所に設定した2地点 (P-1~2) において、種の識別ができる範囲内に出現する鳥類を記録した。

また、ルート及び定点の環境の概要は、表5-2-1-10-21に示すとおりである。

表5-2-1-10-21 鳥類調査地点の環境の概要

調査ルート 調査地点	延長距離 (km)	環境概要
R-1	約1.7	実施区域内 (宅地の造成) を通過するルートである。広葉樹林内のハイキングコースを通過する。
R-2	約1.9	実施区域内 (発生土処分場) に隣接するルートである。施設内の道路を通過する。
R-3	約1.0	実施区域の周辺を通過するルートである。麓にある道路を通過する。
P-1	—	実施区域内 (宅地の造成) の裸地に設置された地点。実施区域北側の上空を見渡せる。
P-2	—	実施区域内 (発生土処分場) の草地に設置された地点。実施区域南側の上空を見渡せる。

c) 爬虫類

i 直接観察法

調査範囲は、図5-2-1-10-11 (P. 400) に示すとおりである。

調査範囲において、草むら、林床の落ち葉の堆積した場所、道路の側溝、ガレ場の石の下、朽木の下等、爬虫類の生息場所を踏査して、生体、幼体、死骸等により生息の確認を行った。

d) 両生類

i 直接観察法 (卵塊・幼生・鳴き声他)

調査範囲は、図5-2-1-10-11 (P. 400) に示すとおりである。

調査範囲において、水たまり、草むら、林床の落ち葉の堆積した場所、道路の側溝、ガレ場の石の下、朽木の下等、両生類の生息場所を踏査して、卵塊、幼生、幼体、成体、鳴き声、死骸等により生息の確認を行った。

e) 昆虫類

i 直接観察法（ビーティング法・スウィーピング法他）

調査範囲は、図5-2-1-10-12（P. 401）に示すとおりである。

昆虫類は種数が多く生活様式が多様なため、さまざまな採集方法を併用することが必要であることから、調査範囲を任意に踏査し、各種採集方法を用いて調査した。本調査においては、主にスウィーピング法（歩きながら捕虫網を左右に振って採集する）、ビーティング法（木の枝等をたたいて落下させて採取する）、見つけ採り法を用いた。採集した昆虫類のうち、現地での同定が困難な種については持ち帰って同定した。また、初夏にホタル類を対象とした夜間調査を水生生物調査地点（図5-2-1-10-18参照）で実施した。

ii ライトトラップ法

調査地点の環境の概要は、表5-2-1-10-20（P. 394）に示すとおりである。また、調査地点は、図5-2-1-10-12（P. 401）に示す。

ライトトラップ法は、夜間、灯火に昆虫類を誘引し採集するもので、走光性をもつ昆虫類に有効である。本調査ではボックス法により行った。光源には6Wのブラックライト1本を使用し、単一乾電池6本で約8時間点灯させた。2地点（T-1～2）に、夕方設置し、翌朝回収した。採集した昆虫類は持ち帰って同定した。

iii ベイトトラップ法

調査地点の環境の概要は、表5-2-1-10-20（P. 394）に示すとおりである。また、調査地点は、図5-2-1-10-12に示す。

ベイトトラップ法は、地面に落とし穴を設けて落下した昆虫類を採集する方法で、特に地表性昆虫類に有効である。トラップとしてプラスチックカップ（口径6.4cm、高さ9cm程度）を用い、誘引餌はビールと乳酸菌飲料を混ぜたものを、3地点（T-1～3）毎に20個を設置、一晩放置した。採集した昆虫類は持ち帰って同定した。

エ) 調査期日

各調査項目の調査期日は、表5-2-1-10-22に示すとおりである。

表5-2-1-10-22 動物調査期日

調査項目	調査時期	調査期日	調査方法
哺乳類	夏季	平成24年8月14日～15日	直接観察法、トラップ法、無人撮影法、バット・ディテクターによるコウモリ調査
	秋季	平成24年10月4日～5日	同上
	冬季	平成24年12月10日～12日	同上
	春季	平成25年4月30日～5月2日	同上
鳥類 (鳥類相)	6月	平成24年6月25日～27日	直接観察法(ルートセンサス法、定点センサス法)、夜間調査
	10月	平成24年10月17日～18日	同上
	12月	平成24年12月10日～12日	同上
	2月	平成25年2月4日～5日・8日	同上
	4月	平成25年4月3日～5日	同上
	5月	平成25年5月1日～2日	同上
爬虫類	夏季	平成24年6月25日～27日	直接観察法
	秋季	平成24年10月4日～5日	同上
	早春季	平成25年3月7日～8日	同上
	春季	平成25年4月30日～5月2日	同上
両生類	夏季	平成24年6月25日～27日	直接観察法、鳴き声調査
	秋季	平成24年10月4日～5日	同上
	早春季	平成25年3月7～8日	同上
	春季	平成25年4月30日～5月2日	同上
昆虫類	6月	平成24年6月13日	直接観察法(ホタル調査)
		平成24年6月25日～27日	直接観察法(ビーティング法、スウィーピング法、見つけ採り法)
	8月	平成24年8月14日～15日	直接観察法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法
	10月	平成24年10月4日～5日	同上
	4月	平成25年4月3日～5日	直接観察法(ビーティング法、スウィーピング法、見つけ採り法)
	5月	平成25年5月1日～2日	直接観察法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法
	6月	平成25年6月1日	直接観察法(ビーティング法、スウィーピング法、見つけ採り法)



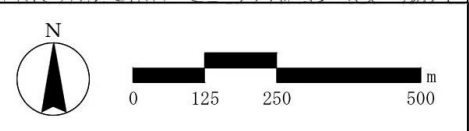
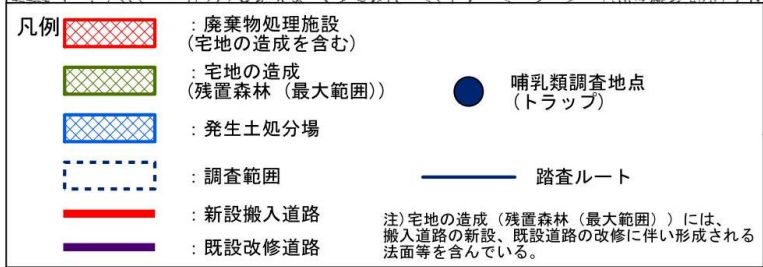
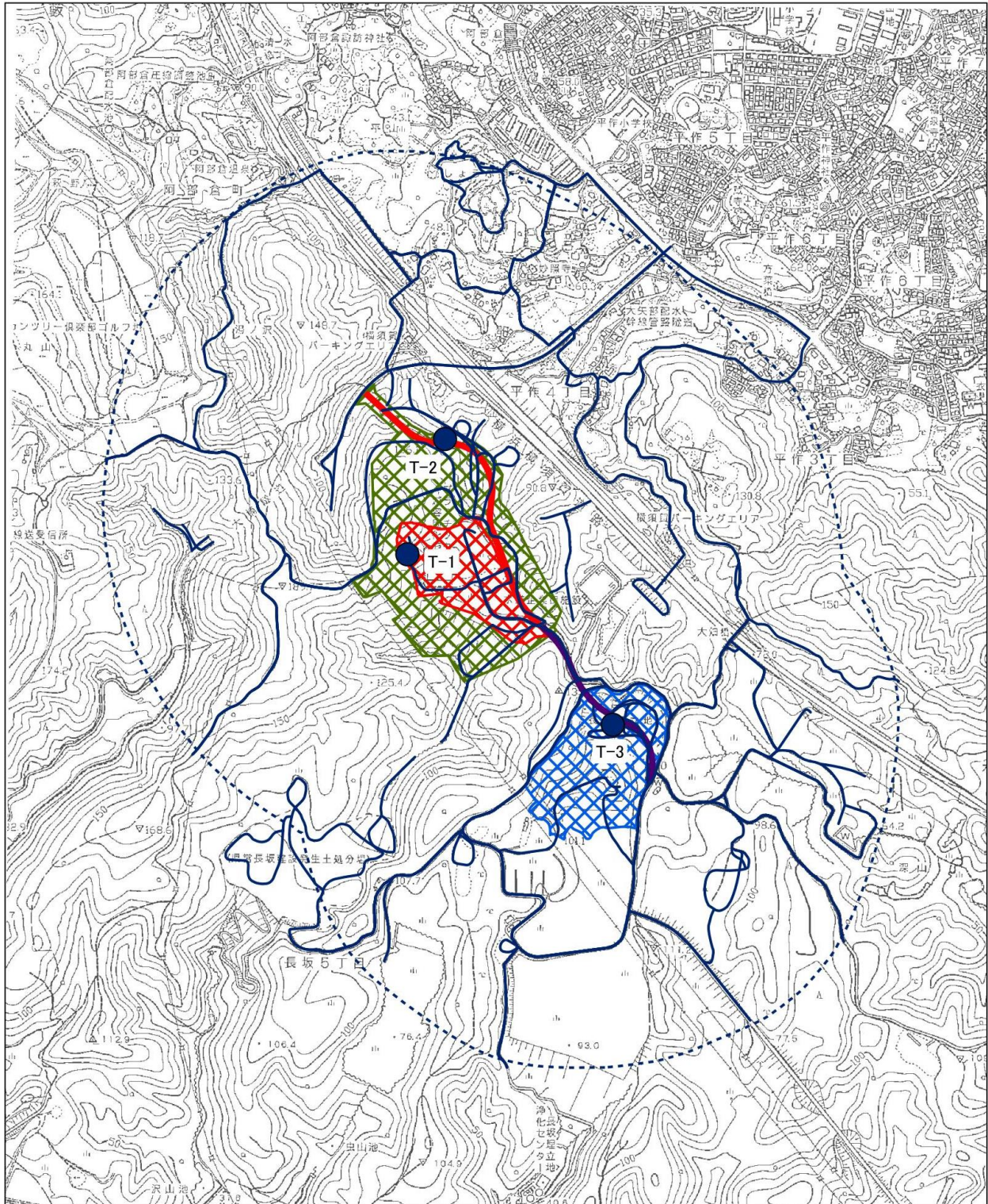


図 5-2-1-10-9 調査地点(哺乳類)

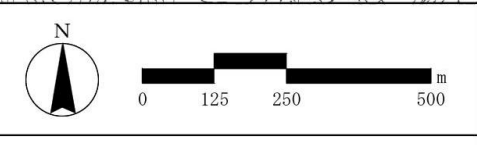
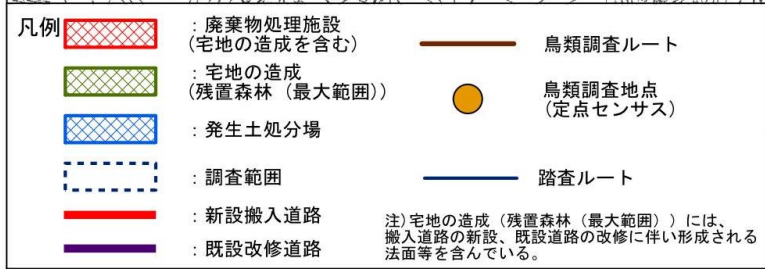
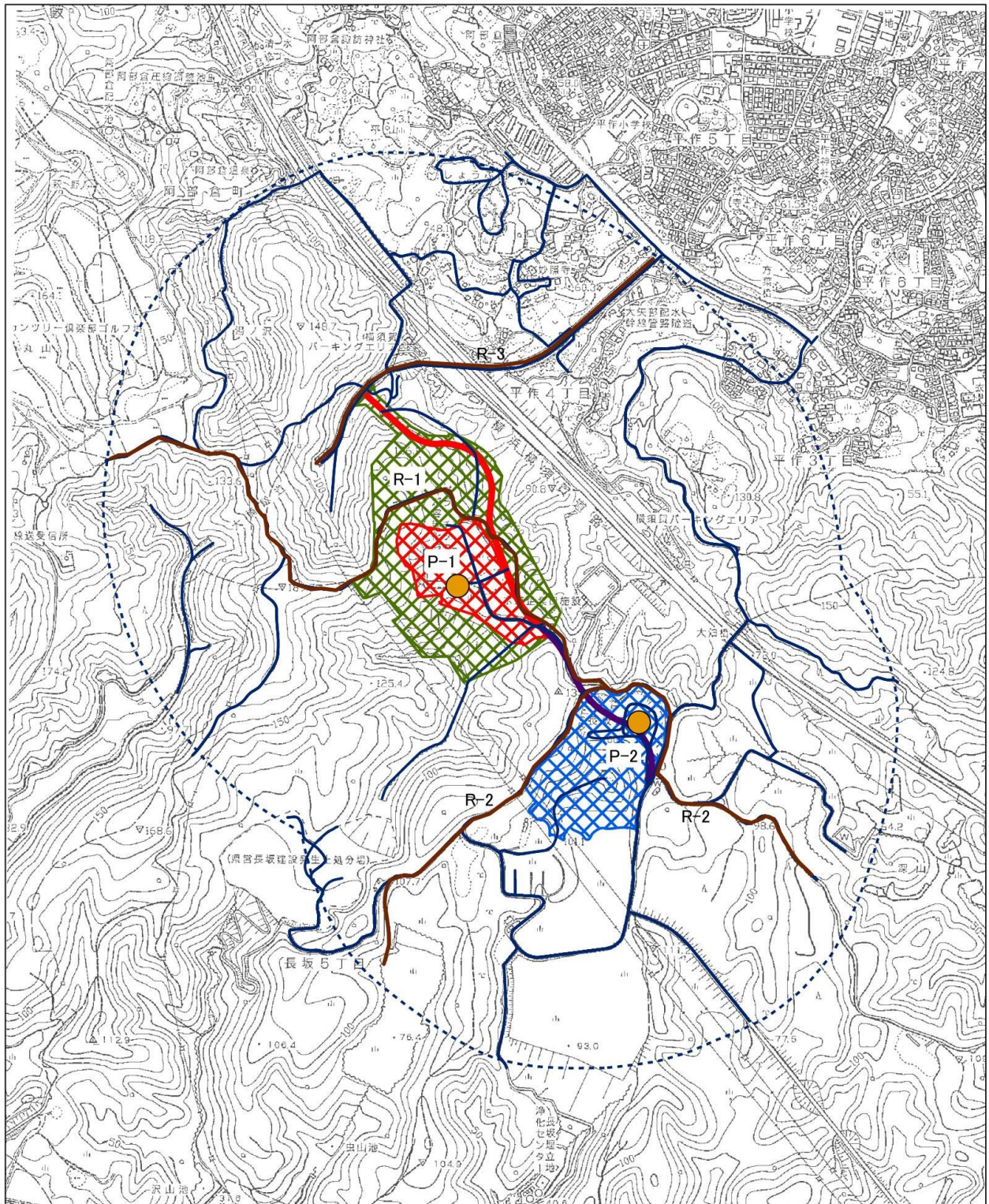
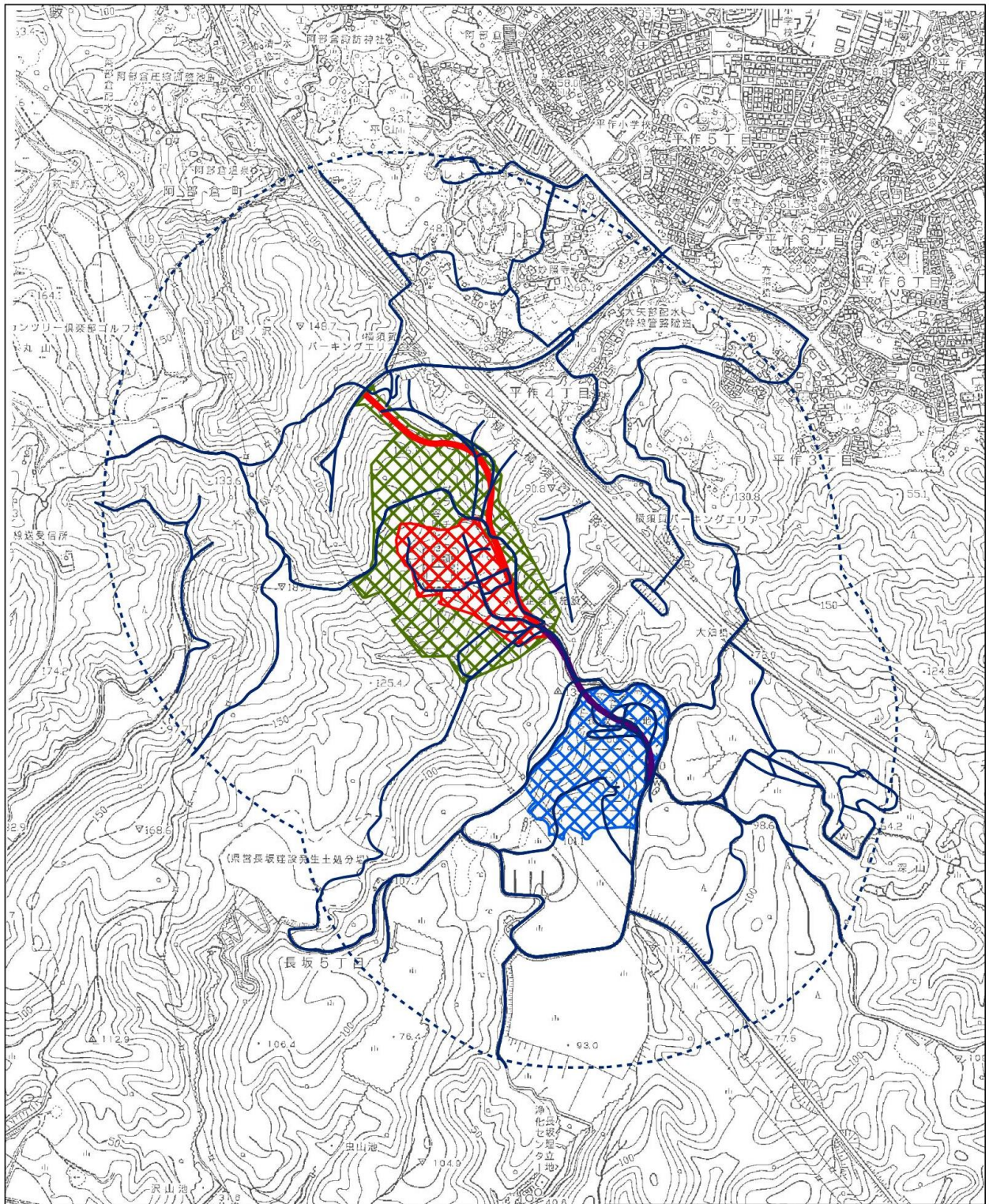


図 5-2-1-10-10 調査地点 (鳥類)



<p><b>凡例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li> : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)</li> <li> : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))</li> <li> : 発生土処分場</li> <li> : 調査範囲</li> <li> : 新設搬入道路</li> <li> : 既設改修道路</li> </ul>	<p> 踏査ルート</p> <p>注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。</p>
--	--

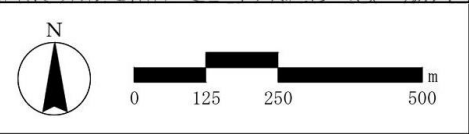


図 5-2-1-10-11 調査地点  
(両生類・爬虫類)

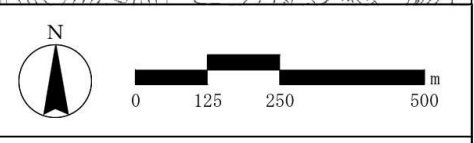
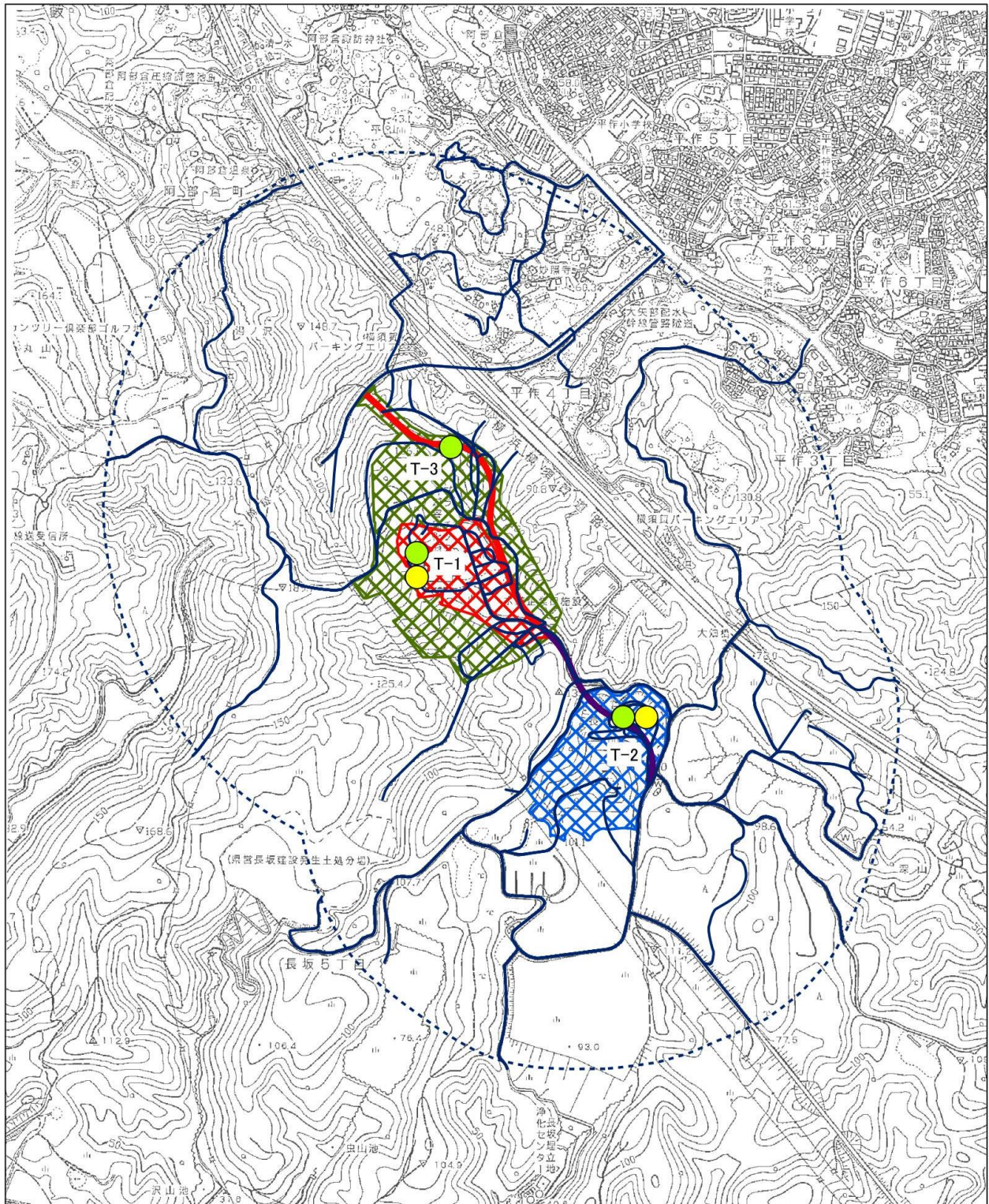


図 5-2-1-10-12 調査地点  
(昆虫類)

オ) 調査結果

a 既存資料調査

既存資料調査確認種の分類群別の概要は、表5-2-1-10-23に示すとおりである。

既存資料により確認された動物は、哺乳類14種、鳥類86種、爬虫類11種、両生類10種、昆虫類1077種であった。このうち、表5-2-1-10-37 (P. 428) の選定基準に該当する重要な種は、哺乳類1種、鳥類43種、爬虫類7種、両生類6種、昆虫類33種であった。

表5-2-1-10-23 既存資料調査による分類群別の概要

分類群	合計種数	重要な種	
		種数	主な種名
哺乳類	14種	1種	イタチ
鳥類	86種	43種	ミゾゴイ、ハチクマ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、ハヤブサ、ツバメ、アカハラ、ルリビタキ、オオルリ等
爬虫類	11種	7種	イシガメ、トカゲ、シマヘビ、アオダイショウ、マムシ等
両生類	10種	6種	トウキョウサンショウウオ、イモリ、アズマヒキガエル、ニホンアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル
昆虫類	1,077種	33種	ミルンヤンマ、キボシケシゲンゴロウ、ヒラタクワガタ、キイロトラカミキリ、カボチャミバエ、スミナガシ等

b 現地調査結果

a) 哺乳類

i 確認種

確認種は、表5-2-1-10-24に示すとおりである。なお、表中には既存資料調査による確認種も記した。

現地調査確認種は、合計5目9科9種であった。調査時期別の種数は、夏7種、秋5種、冬6種、春6種であり、大差はなかった。

調査範囲の広い範囲でアズマモグラの塚や坑道及びタイワンリスが確認され、実施区域では、タヌキ及びノウサギの糞が確認された。一方、トラップ調査ではアカネズミが捕獲されたほか、無人撮影法では、タヌキ、イタチ、ハクビシンが撮影された。夜間調査では、コウモリ目の一種（バットディテクターによる確認）が、実施区域内及びその周辺の草地や林縁の上空で確認された。

また、実施区域の周辺の草地では、アライグマの足跡が確認された。

表5-2-1-10-24 哺乳類確認種

番号	目	科	種名	文献	調査時期				調査範囲			重要種	
					夏季	秋季	冬季	春季	実施区域*				周辺
					8月	10月	12月	5月	①	②	③		
1	モグラ	モグラ	ヒミズ	●									
2			アズマモグラ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	●									
-			コウモリ目の一種		○	○		○	○	○	○	○	
4	サル	サル	ニホンザル	●									
5	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	●	○	○	○	○	○		○	○	
6	ネズミ	リス	タイワンリス	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
7		ネズミ	アカネズミ	●				○	○				
8			ヒメネズミ	●									
9			カヤネズミ	●									
10			ハツカネズミ	●									
11	ネコ	アライグマ	アライグマ				○					○	
12		イヌ	タヌキ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
13			キツネ	●									
14		イタチ	イタチ	●	○		○			○		○	○
15			アナグマ	●									
16		ジャコウネコ	ハクビシン		○					○			
合計	6目	10科	16種	14種	7種	5種	6種	6種	6種	6種	5種	7種	1種

- 注) 1. 分類及び種名は「日本産野生生物目録 脊椎動物編」(平成5年、環境庁)に準拠した。  
 2. モグラ類の塚や坑道は、分布上からアズマモグラとした。  
 3. コウモリは、バット・ディテクターによる確認であり、種の同定が困難であるため、コウモリ目の一種とした。  
 4. イタチ科の一種は、チョウセンイタチの記録がないことからイタチとした。  
 5. ※実施区域 ①：廃棄物処理施設、②：宅地の造成、③：発生土処分場

## ii 確認状況

各種の確認状況は、以下に示すとおりである。

### ○アズマモグラ

通年、実施区域内及びその周辺の林道等で、塚及び坑道が確認された。

### ○コウモリ目の一種

夏季、秋季、春季に、実施区域内及びその周辺の草地、林縁等の上空で確認された(バット・ディテクターによる反応周波数帯は40～60kHz)。

### ○ノウサギ

通年、実施区域(発生土処分場)で糞が確認された。

冬季に、実施区域の周辺のスギ植林内で1個体が目撃された。

春季に、実施区域内(宅地の造成)及びその周辺で延べ3個体が確認された。

### ○タイワンリス

通年、実施区域内及びその周辺の広い範囲で確認された。

### ○アカネズミ

春季に、トラップ調査で捕獲された。捕獲された個体数は、T-1で1個体、T-3で1個体の合計2個体であった。

### ○アライグマ

冬季に、実施区域の周辺の草地で足跡が確認された。

### ○タヌキ

夏季に、実施区域内(宅地の造成)で足跡が確認されたほか、実施区域内(新規搬入道路)に設置した自動撮影装置(T-2)で1個体が撮影された。

秋季に、実施区域の周辺で足跡及び糞が確認された。

冬季に、実施区域内(宅地の造成・発生土処分場)で糞が確認された。

春季に、実施区域の周辺で糞が確認された。

### ○イタチ

夏季に、実施区域内(新規搬入道路)に設置した自動撮影装置(T-2)で1個体が撮影された。

冬季に、実施区域の周辺で糞が確認された。

### ○ハクビシン

夏季に、実施区域内(新規搬入道路)に設置した自動撮影装置(T-2)で1個体が撮影された。

### iii トラップ法

トラップ調査により、表5-2-1-10-25に示すとおり、アカネズミが合計2個体捕獲された。調査時期別では、春季で2個体であった。調査地点別では、T-1と T-3でそれぞれ1個体であった。夏季、秋季、冬季調査では、捕獲されなかった。

表5-2-1-10-25 トラップ捕獲個体数一覧

調査地点／調査時期	夏季	秋季	冬季	春季	合計
T-1	0	0	0	1 <sup>注)</sup>	1
T-2	0	0	0	0	0
T-3	0	0	0	1 <sup>注)</sup>	1
合計	0	0	0	2	2

注) アカネズミ



b) 鳥類

i 生息確認種

現地調査による確認種は、表5-2-1-10-26(1/2)～(2/2)に示すとおりである。確認種は、鳥類相調査による確認種のほか、既存資料調査による確認種も記載した。

現地調査により生息が確認された鳥類は、合計14目35科74種であった。調査回別にみると、鳥類相調査では、6月調査で35種、10月調査で43種、12月調査で50種、2月調査で43種、4月調査で45種、5月調査で40種が確認された。

主な確認種は、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ハシブトガラス等であった。6月調査ではホトトギス、ヤブサメ、オオルリ等の夏鳥が確認された。12月、2月の調査ではジョウビタキ、ツグミ類、アオジ等の冬鳥が確認された。また、4月、5月、10月調査では、猛禽類、ヒタキ類等の渡りの途中と思われる種も確認された。

夜間調査では、フクロウの鳴き声の実施区域内(宅地の造成)及び実施区域の周辺の樹林で確認されたほか、ミゾゴイの鳴き声も実施区域内(宅地の造成)の樹林で確認された。

環境別にみると、樹林では、フクロウ、カラ類、キツツキ類等のほか、コジュケイやガビチョウ等の外来種も確認された。実施区域の周辺の人家周辺では、カラス類、ムクドリ、スズメ等の人里を好む種が確認された。また、平作川や『横須賀しょうぶ園』の池では、セキレイ類、カワセミ等の水辺を好む種が確認された。

表5-2-1-10-26 (1/2) 鳥類確認種

番号	目	科	和名	文献	調査時期					調査範囲			渡り区分	重要種		
					6月	10月	12月	2月	4月	5月	実施区域*				周辺	
					①	②	③	①	②	③						
1	キジ	キジ	ヤマドリ	●											留鳥	○
2			キジ	●	○	○				○	○	○	○		留鳥	
3	カモ	カモ	オンドリ	●											冬鳥	○
4			カルガモ	●	○	○	○	○	○						留鳥	
5	ハト	ハト	キジバト	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○		留鳥	
6			アオバト	●	○	○									夏鳥	○
7	カツオドリ	ウ	ヒメウ	●											冬鳥	○
8			カワウ	●	○	○	○			○	○	○	○		留鳥	
9			ウミウ	●											冬鳥	○
10	ペリカン	サギ	ミゾゴイ	●						○					夏鳥	○
11			ゴイサギ	●											留鳥	
12			ササゴイ	●											夏鳥	○
13			アオサギ	●	○	○				○	○	○	○		留鳥	
14			コサギ	●											留鳥	
15	カッコウ	カッコウ	ホトギス	●	○										夏鳥	
16			ツツドリ	●											夏鳥	
17			カッコウ	●											夏鳥	○
18	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	●											夏鳥	
19			ヒメアマツバメ	●			○							○	留鳥	○
20	チドリ	チドリ	タゲリ	●											冬鳥	○
21			イカルチドリ	●											留鳥	○
22			コチドリ	●	○									○	夏鳥	○
23		シギ	イノシギ	●											留鳥	○
24		カモメ	オオセグロカモメ	●						○				○	冬鳥	
25	タカ	ミサゴ	ミサゴ	●				○						○	留鳥	○
26		タカ	ハチクマ	●	○								○	○	夏鳥	○
27			トビ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
28			ツミ	●			○	○						○	留鳥	○
29			ハイタカ	●			○							○	冬鳥	○
30			オオタカ	●			○	○							留鳥	
31			サシバ	●						○				○	夏鳥	○
32			ノスリ	●		○	○	○	○	○	○	○	○	○	冬鳥	○
33	フクロウ	フクロウ	フクロウ	●		○				○	○	○	○	○	留鳥	○
34			アオバズク	●											夏鳥	○
35	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	●	○		○		○	○				○	留鳥	
36	キツツキ	キツツキ	ユゲラ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
37			アカゲラ	●			○	○						○	留鳥	
38			アオゲラ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
39	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	●	○										留鳥	
40			チゴハヤブサ	●											旅鳥	
41			ハヤブサ	●	○									○	冬鳥	○
42	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	●											旅鳥	○
43		カササギヒタキ	サンコウチョウ	●											夏鳥	○
44		モズ	モズ	●		○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	○
45		カラス	カケス	●		○	○							○	冬鳥	
46			オナガ	●											留鳥	
47			ハシボソガラス	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
48			ハシブトガラス	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
49		キクイタダキ	キクイタダキ	●				○						○	冬鳥	○
50		シジュウカラ	コガラ	●					○						冬鳥	○
51			ヤマガラ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
52			ヒガラ	●			○	○	○	○	○	○	○	○	冬鳥	
53			シジュウカラ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
54		ヒバリ	ヒバリ	●											留鳥	○
55		ツバメ	ツバメ	●	○					○	○	○	○	○	夏鳥	○
56			イワツバメ	●											夏鳥	
57		ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
58		ウグイス	ウグイス	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
59			ヤブサメ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	夏鳥	○
60		エナガ	エナガ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
61		ムシクイ	メボソムシクイ	●											夏鳥	
62			センダイムシクイ	●										○	夏鳥	○
63		メジロ	メジロ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
64		ヨシキリ	オオヨシキリ	●											夏鳥	○
65		セッカ	セッカ	●										○	留鳥	○
66		ミンサザイ	ミンサザイ	●			○	○					○	○	冬鳥	
67		ムクドリ	ムクドリ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	
68		ヒタキ	トラツグミ	●											留鳥	○
69			クロツグミ	●											夏鳥	○
70			マミチャジナイ	●			○						○	○	旅鳥	
71			シロハラ	●			○	○	○	○	○	○	○	○	冬鳥	
72			アカハラ	●			○	○	○	○	○	○	○	○	冬鳥	○
73			ツグミ	●		○	○	○	○				○	○	冬鳥	
74			コマドリ	●											夏鳥	○
75			コルリ	●											夏鳥	○
76			ルリビタキ	●			○	○	○				○	○	冬鳥	○
77			ジョウビタキ	●			○	○	○				○	○	冬鳥	
78			ノビタキ	●											旅鳥	
79			エノビタキ	●			○							○	旅鳥	
80			サメビタキ	●											旅鳥	

表5-2-1-10-26(2/2) 鳥類確認種

番号	目	科	和名	文献	調査時期						調査範囲			渡り区分	重要種		
					6月	10月	12月	2月	4月	5月	実施区域*					周辺	
											①	②	③				
81			コサメビタキ	●											夏鳥	○	
82			キビタキ	●		○							○	○	夏鳥	○	
83			オオルリ	●	○							○		○	夏鳥	○	
84		イワヒバリ	カヤクグリ				○							○	冬鳥		
85		スズメ	スズメ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥		
86		セキレイ	キセキレイ	●		○	○		○	○				○	冬鳥	○	
87			ハクセキレイ	●	○	○	○	○	○	○				○	留鳥	○	
88			セグロセキレイ	●	○	○	○	○	○	○				○	留鳥	○	
89			ビンズイ	●		○		○				○	○	○	○	冬鳥	○
90			クヒバリ			○								○	冬鳥		
91		アトリ	カワラヒワ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥	○	
92			マヒワ			○	○	○				○	○	○	○	冬鳥	
93			ペニマシコ	●			○	○	○				○	○	○	冬鳥	
94			ウソ	●			○	○	○			○	○	○	○	冬鳥	
95			シメ	●		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	冬鳥	
96			イカル			○	○	○						○	○	留鳥	
97		ホオジロ	ホオジロ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥		
98			カシラダカ	●			○							○	○	冬鳥	
99			ミヤマホオジロ	●												冬鳥	
100			アオジ	●		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	冬鳥	○
101			クロジ	●			○	○						○	冬鳥	○	
102	キジ	キジ	コジュケイ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	外来種		
103	ハト	ハト	ドバト	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	外来種		
104	スズメ	チメドリ	ガビチョウ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	外来種		
合計	14目	40科	104種	86種	35種	43種	50種	43種	45種	40種	37種	42種	47種	70種	-	40種	
					74種												

- 注) 1. 分類及び種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。  
 2. 外来種(コジュケイ、ドバト、ガビチョウ)はリストの末尾に示し、目名、科名がリスト内で重複した際は括弧書きにして区別した。  
 3. オシドリは、両生類・爬虫類早春調査で確認された。  
 4. \*実施区域 ①: 廃棄物処理施設、②: 宅地の造成、③: 発生土処分場

ii 調査方法別の調査結果

調査ルート及び定点の結果は、表5-2-1-10-27～表5-2-1-10-28に示し、調査月別の結果は、表5-2-1-10-29(1/6)～(6/6)に示すとおりである。

i) ルートセンサス法

調査の結果、9目24科53種、延べ1,639個体が確認された。地点別では、R-1が37種501個体、R-2が40種728個体、R-3が34種410個体であった。

R-1は大楠山ハイキングコースを通過するルートで、樹林環境が多く、キツツキ類、メジロ、ヤブサメ、ガビチョウ等の樹林性の鳥類が確認された。

R-2は主に林縁沿いの舗装路を通過するルートで、メジロ(101個体)が最も多く確認され、トビ、ウグイス、アオジ等が確認された。また実施区域上空を通過するハチクマの飛翔も確認された。

R-3は平作の道路沿いを通過するルートで、ヒヨドリ(104個体)が最も多く確認され、ウグイス、メジロ、スズメ、ハシボソガラス等が確認された。

表 5-2-1-10-27 ルートセンサス調査結果

No.	種名	R-1							R-2							R-3							総計	
		6月	10月	12月	2月	4月	5月	合計	6月	10月	12月	2月	4月	5月	合計	6月	10月	12月	2月	4月	5月	合計		
1	キジ	1						1							1								2	
2	カルガモ																		1	2			3	
3	キジバト				3			3		8	4				13	2	2	1		4			9	
4	カワウ								1					1	2								2	
5	ホトトギス															1							1	
6	ハチクマ								1						1								1	
7	トビ	2		1	1	1		5		1		1	1	4	2	2	4	4				12		
8	オオタカ												1	1	1	2							2	
9	ノスリ										1				1		1		1				2	
10	カワセミ																		1				1	
11	ヨグラ	1	1	4	1	3	2	12	1	3	3	6	1	5	19	1	1				1	3	34	
12	アカゲラ				1			1														1	1	
13	アオゲラ					2	1	3		2					2					1		1	6	
14	モズ		1	1				2		4					4		4					4	10	
15	カケス		1					1		1					1		3					3	5	
16	ハシボソガラス					13		13	1		5				6	1	2	4	1	1	4	13	32	
17	ハシブトガラス	7	5	4	1	2	4	23	57	9	2	2	2	1	73	12	7	9	2	4	4	38	134	
18	キクイタダキ											3			3								3	
19	ヨグラ							1															1	
20	ヤマガラ	1	1	3		4	1	10	2	2	5	10	3	4	26	1		1	1		1	4	40	
21	ヒガラ				1			1				2	3		6								7	
22	シジュウカラ		6	12		6	3	27	8	5	7	8	8	2	38	1		2		1		4	69	
23	ツバメ	2						2	1						1							1	4	
24	ヒヨドリ		55	21	3	24	1	104	2	41	22	10	16	3	94	15	57	16	10	5	1	104	302	
25	ウグイス	25		11		20	11	67	23	4	6	3	28	10	74	9		5	2	2	3	21	162	
26	ヤブサメ	1				1		2															2	
27	エナガ			3		2		5		3			2		5				2			2	12	
28	メジロ	18	36	37	1	20	8	120	31	18	22	11	15	4	101	45	14	2	1	4	70	291		
29	ムクドリ																5		12		5	22	22	
30	マミチャジナイ									2					2								2	
31	シロハラ			6	3	3	1	13			4	6			10								23	
32	アカハラ					1		1				2	1		3								4	
33	ツグミ										5				5				1			1	6	
34	ルリビタキ			1	1			2				1			1								3	
35	ジョウビタキ										3	1			4		1					1	5	
36	キビタキ		1					1		2					2								3	
37	オオルリ	1						1															1	
38	スズメ	7						7	21	2	2				25	7	6	2	4	7	9	35	67	
39	キセキレイ																1			1	1	3	3	
40	ハクセキレイ							2									3	2	4	2	1	12	14	
41	セグロセキレイ	1	1													1	1	3				5	5	
42	カワラヒワ					2		2	2	1		1			4	2					2	4	10	
43	ベニマシコ					1		1			5				5								6	
44	ウソ			5				5			9	1			10								15	
45	シメ			3				1	4	2			3		5		1	1				2	11	
46	イカル				1			1															1	
47	ホオジロ	1	5			3	3	12	7	10	12	1	8	11	49	1	6				1	8	69	
48	カンラダカ										1				1								1	
49	アオジ			4	5	6		15			31	19	6		56			2	5	1		8	79	
50	グロジ							2	2														2	
51	コジュケイ	5		7		7		19	8	11	8		15	3	45	1	2			1		4	68	
52	ドバト									3					3			4					4	7
53	ガビチョウ	3				5		10	8	3	5		6		22	1					1	1	3	35
合計	53種	個体数	76	113	127	20	127	38	501	177	135	162	88	121	45	728	102	107	73	56	33	39	410	1,639
		種数	15	11	19	10	21	12	37	17	22	21	18	19	11	40	16	17	19	16	15	15	34	53

注) 1. 分類群及び種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

2. 外来種(コジュケイ、ドバト、ガビチョウ)はリストの末尾に示し、目名、科名がリスト内で重複した際は括弧書きにして区別した。

ii) 定点調査

調査の結果、10日24科44種、延べ602個体が確認された。地点別では、P-1が32種270個体、P-2が40種332個体であった。

P-1は、実施区域内(宅地の造成)の廃棄物処理施設脇に設置され、最も多く確認されたスズメ(46個体)は、処理施設で営巣していたほか、ハクセキレイの確認も施設周辺のみであった。また、周囲には落葉広葉樹林、ササ藪、草地等に接しているため、ヤマガラ、ウグイス、メジロ、ホオジロ等が確認されたほか、上空を飛行するチョウゲンボウ、ツバメ、カワラヒワ等が確認された。

P-2は実施区域内(発生土処分場)の草地に設置され、ヒヨドリ(59個体)が最も多く確認された。ススキ草地ではホオジロ、周囲のササ藪ではウグイスやアオジが比較的多く確認された。

表 5-2-1-10-28 定点調査結果

No.	種名	P-1						P-2						総計			
		6月	10月	12月	2月	4月	5月	合計	6月	10月	12月	2月	4月		5月	合計	
1	キジ													1	1	1	
2	カルガモ										1			1	2	2	
3	キジバト		6	5				11	1	10	8		1		20	31	
4	アオバト									1					1	1	
5	カワウ	2		1			1	4			2		6		8	12	
6	アオサギ								1						1	1	
7	ホトギス								1						1	1	
8	トビ	2		1	2	1		6	2	1		1	2	2	8	14	
9	ノスリ				1			1								1	
10	コゲラ		1			2	2	5	2		2		1	2	7	12	
11	アオゲラ			1	1	1		3		1	1		1		3	6	
12	チョウゲンボウ	1						1								1	
13	モズ			1				1		1					1	2	
14	ハシボソガラス				1			1	1						1	2	
15	ハシブトガラス	9	4	3	3	2	3	24	9	5		1	3	5	23	47	
16	ヤマガラス	1				2	1	4			1		3	4	8	12	
17	シジュウカラ	1	1	1		1		4	1	3	1		3		8	12	
18	ツバメ	1					2	3	1					8	9	12	
19	ヒヨドリ	1	8	7		12	1	29		23	12		21	3	59	88	
20	ウグイス	5	1	1	1	3	3	14	3	2	3		9	3	20	34	
21	エナガ					2		2						2	2	4	
22	メジロ	1	1	14		3	3	22	7	6	11		4	2	30	52	
23	ムクドリ	7						7								7	
24	マミチャジナイ									4					4	4	
25	シロハラ			1				1			1		1		2	3	
26	アカハラ												1		1	1	
27	ツグミ										10				10	10	
28	ルリビタキ			1				1					1		1	2	
29	ジョウビタキ			1				1			1				1	2	
30	スズメ	8	17	9	4	4	4	46	3	1					4	50	
31	ハクセキレイ	4	2	1	1	1	1	10								10	
32	ビンズイ		3					3		2					2	5	
33	カワラヒワ	4	16			1	1	22	9	6	3				18	40	
34	マヒワ		6					6		3	2				5	11	
35	ベニマシコ										2				2	2	
36	ウソ			2				2			7				7	9	
37	シメ		1	3				4		2	5				7	11	
38	イカル									2					2	2	
39	ホオジロ	3	5	3		2	6	19	2	3	7		3	2	17	36	
40	カシラダカ										1				1	1	
41	アオジ						1	1			1		1		2	3	
42	コジュケイ	1	2	1	1	3		8	5	1	2		14	2	24	32	
43	ドバト									1					1	1	
44	ガビチョウ	3				1		4	4	3			1		8	12	
合計	44種	個体数	54	74	57	15	41	29	270	52	81	84	2	77	36	332	602
		種数	17	15	19	9	16	13	32	16	21	22	2	19	12	40	44

注) 1. 分類群及び種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。  
 2. 外来種(コジュケイ、ドバト、ガビチョウ)はリストの末尾に示し、目名、科名がリスト内で重複した際は括弧書きにして区別した。

表5-2-1-10-29 (1/6) ルート・地点別確認個体数一覧 (6月)

番号	目名	科名	種名	ルートセンサス			定点		直接観察	
				R-1	R-2	R-3	P-1	P-2	実施 区域	周辺
1	キジ	キジ	キジ	1					○	
2	カモ	カモ	カルガモ						○	○
3	ハト	ハト	キジバト			2		1	○	○
4			アオバト							○
5	カツオドリ	ウ	カワウ		1		2		○	○
6	ペリカン	サギ	アオサギ					1	○	○
7	カッコウ	カッコウ	ホトトギス			1		1		○
8	チドリ	チドリ	コチドリ							○
9	タカ	タカ	ハチクマ		1					
10			トビ	2		2	2	2	○	○
11	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ							○
12	キツツキ	キツツキ	コゲラ	1	1	1		2	○	○
13			アオゲラ							
14	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ				1			
15			ハヤブサ							
16	スズメ	カラス	ハシボソガラス		1	1		1	○	○
17			ハシブトガラス	7	57	12	9	9	○	○
18		シジュウカラ	ヤマガラ	1	2	1	1			○
19			シジュウカラ		8	1	1	1	○	○
20		ツバメ	ツバメ	2	1		1	1	○	○
21		ヒヨドリ	ヒヨドリ		2	15	1		○	○
22		ウグイス	ウグイス	25	23	9	5	3	○	○
23			ヤブサメ	1						
24		エナガ	エナガ							○
25		メジロ	メジロ	18	31	45	1	7	○	○
26		ムクドリ	ムクドリ				7			○
27		ヒタキ	オオルリ	1						
28		スズメ	スズメ	7	21	7	8	3	○	○
29		セキレイ	ハクセキレイ	1			4		○	○
30	セグロセキレイ									○
31	アトリ	カワラヒワ		2	2	4	9	○	○	
32	ホオジロ	ホオジロ	1	7	1	3	2	○	○	
33	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	5	8	1	1	5	○	○
34	(ハト)	(ハト)	ドバト		3				○	○
35	(スズメ)	チメドリ	ガビチョウ	3	8	1	3	4	○	○
計	12目	25科	35種	15種	17種	16種	17種	16種	22種	31種
				76 個体	177 個体	102 個体	54 個体	52 個体		

- 注) 1. 分類群及び種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。  
2. 外来種(コジュケイ、ドバト、ガビチョウ)はリストの末尾に示し、目名、科名がリスト内で重複した際は括弧書きにして区別した。

表 5-2-1-10-29 (2/6) ルート・地点別確認個体数一覧 (10月)

番号	目名	科名	種名	ルートセンサス			定点		直接観察		
				R-1	R-2	R-3	P-1	P-2	実施 区域	周辺	
1	キジ	キジ	キジ						○		
2	カモ	カルガモ	カルガモ							○	
3	ハト	ハト	キジバト		8	2	6	10	○	○	
4			アオバト						1		○
5	カツオドリ	ウ	カワウ							○	
6	ペリカン	サギ	アオサギ							○	
7	タカ	タカ	トビ		1	2		1	○	○	
8			オオタカ							○	○
9			ノスリ				1			○	○
10	フクロウ	フクロウ	フクロウ							○	
11	キツツキ	キツツキ	コゲラ	1	3	1	1		○	○	
12			アオゲラ			2			1	○	○
13	スズメ	モズ	モズ	1	4	4		1		○	
14		カラス	カケス	1	1	3			○	○	
15			ハシボソガラス			2					○
16			ハシブトガラス	5	9	7	4	5	○	○	
17		シジュウカラ	ヤマガラ	1	2				○	○	
18			ヒガラ		1					○	
19			シジュウカラ	6	5		1	3	○	○	
20		ヒヨドリ	ヒヨドリ	55	41	57	8	23	○	○	
21		ウグイス	ウグイス		4		1	2	○	○	
22		エナガ	エナガ		3						○
23		メジロ	メジロ	36	18	4	1	6	○	○	
24		ムクドリ	ムクドリ			5				○	○
25		ヒタキ	マミチャジナイ		2				4	○	○
26			ツグミ								○
27			エゾビタキ								○
28			キビタキ	1	2					○	○
29		スズメ	スズメ		2	6	17	1	○	○	
30		セキレイ	キセキレイ								○
31			ハクセキレイ	1		3	2			○	○
32			セグロセキレイ			1				○	○
33	ビンズイ					3	2	○	○		
34	タヒバリ									○	
35	アトリ	カワラヒワ		1		16	6	○	○		
36		マヒワ				6	3	○	○		
37		シメ		2	1	1	2	○	○		
38		イカル					2	○	○		
39	ホオジロ	ホオジロ	5	10	6	5	3	○	○		
40		アオジ								○	
41	(キジ)	(キジ)	コジュケイ		11	2	2	1	○	○	
42	(ハト)	(ハト)	ドバト					1	○	○	
43	(スズメ)	チメドリ	ガビチョウ		3			3	○	○	
計	9目	22科	43種	11種	22種	17種	17種	21種	31種	40種	
				個体	個体	個体	個体	個体			

注) 1. 分類群及び種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。  
 2. 外来種(コジュケイ、ドバト、ガビチョウ)はリストの末尾に示し、目名、科名がリスト内で重複した際は括弧書きにして区別した。

表 5-2-1-10-29 (3/6) ルート・地点別確認個体数一覧 (12月)

番号	目名	科名	種名	ルートセンサス			定点		直接観察		
				R-1	R-2	R-3	P-1	P-2	実施 区域	周辺	
1	カモ	カモ	カルガモ			1		1		○	
2	ハト	ハト	キジバト		4	1	5	8		○	
3	カツオドリ	ウ	カワウ				1	2		○	
4	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ							○	
5	タカ	タカ	トビ	1		4	1		○	○	
6			ツミ								○
7			ハイタカ								○
8			オオタカ				2				
9			ノスリ				1			○	○
10	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ							○	
11	キツツキ	キツツキ	コゲラ	4	3			2	○	○	
12			アカゲラ	1							○
13			アオゲラ					1	1	○	
14	スズメ	モズ	モズ	1			1			○	
15		カラス	カケス								○
16			ハシボソガラス			5	4				○
17			ハシブトガラス	4	2	9	3			○	○
18		シジュウカラ	ヤマガラ	3	5	1		1	○	○	
19			ヒガラ	1						○	○
20			シジュウカラ	12	7	2	1	1	○	○	
21		ヒヨドリ	ヒヨドリ	21	22	16	7	12	○	○	
22		ウグイス	ウグイス	11	6	5	1	3	○	○	
23		エナガ	エナガ	3					○	○	
24		メジロ	メジロ	37	22	14	14	11	○	○	
25		セッカ	セッカ								○
26		ミソサザイ	ミソサザイ							○	○
27		ムクドリ	ムクドリ								○
28		ヒタキ	シロハラ	6	4		1	1	○	○	
29			アカハラ							○	○
30			ツグミ			5			10	○	○
31			ルリビタキ	1				1			○
32			ジョウビタキ			3	1	1	1	○	○
33		イワヒバリ	カヤクグリ								○
34		スズメ	スズメ		2	2	9		○	○	
35	セキレイ	キセキレイ			1					○	
36		ハクセキレイ			2	1		○	○		
37		セグロセキレイ			1					○	
38	アトリ	カワラヒワ					3	○	○		
39		マヒワ					2	○			
40		ベニマシコ			5		2	○	○		
41		ウソ	5	9		2	7	○	○		
42		シメ	3		1	3	5	○	○		
43		イカル								○	
44		ホオジロ	ホオジロ		12			3	7	○	○



表 5-2-1-10-29 (3/6) ルート・地点別確認個体数一覧 (12月：続き)

番号	目名	科名	種名	ルートセンサス			定点		直接観察	
				R-1	R-2	R-3	P-1	P-2	実施 区域	周辺
45	(スズメ)	(ホオジロ)	カシラダカ		1			1		○
46			アオジ	4	31	2		1	○	○
47			クロジ							○
48	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	7	8		1	2	○	○
49	(ハト)	(ハト)	ドバト			4			○	○
50	(スズメ)	チメドリ	ガビチョウ	2	5				○	○
計	9目	22科	50種	19種	21種	19種	19種	22種	29種	47種
				127 個体	162 個体	73 個体	57 個体	84 個体		

- 注) 1. 分類群及び種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。  
 2. 外来種(コジュケイ、ドバト、ガビチョウ)はリストの末尾に示し、目名、科名がリスト内で重複した際は括弧書きにして区別した。

表 5-2-1-10-29 (4/6) ルート・地点別確認個体数一覧 (2月)

番号	目名	科名	種名	ルートセンサス			定点		直接観察	
				R-1	R-2	R-3	P-1	P-2	実施 区域	周辺
1	カモ	カモ	カルガモ			2				
2	ハト	ハト	キジバト	3					○	○
3	タカ	ミサゴ	ミサゴ							○
4		タカ	トビ	1	1	4	2	1	○	○
5			ツミ							○
6			ノスリ			1	1			○
7	キツツキ	キツツキ	コゲラ	1	6				○	○
8		アカゲラ							○	
9		アオゲラ					1			○
10	スズメ	モズ	モズ						○	○
11		カラス	ハシボソガラス			1	1		○	○
12			ハシブトガラス	1	2	2	3	1	○	○
13		キクイタダキ	キクイタダキ		3					
14		シジュウカラ	ヤマガラ		10	1				○
15			ヒガラ		2					
16			シジュウカラ		8					○
17		ヒヨドリ	ヒヨドリ	3	10	10			○	○
18		ウグイス	ウグイス		3	2	1		○	○
19		エナガ	エナガ			2			○	○
20		メジロ	メジロ	1	11	2			○	○
21		ミソサザイ	ミソサザイ							○
22		ムクドリ	ムクドリ			12				○
23		ヒタキ	シロハラ	3	6				○	○
24			アカハラ		2					○
25			ツグミ			1			○	○
26			ルリビタキ	1	1					○
27			ジョウビタキ		1					○
28		スズメ	スズメ			4	4		○	○
29		セキレイ	ハクセキレイ			4	1			○
30			セグロセキレイ			3				○
31			ビンズイ							○
32		アトリ	カワラヒワ		1					○
33			マヒワ						○	○
34			ベニマシコ						○	○
35			ウソ		1					○
36			シメ						○	○
37	イカル		1						○	
38	ホオジロ	ホオジロ		1				○	○	
39		アオジ	5	19	5			○	○	
40		クロジ							○	
41	(キジ)	(キジ)	コジュケイ				1	○	○	
42	(ハト)	(ハト)	ドバト						○	
43	(スズメ)	チメドリ	ガビチョウ						○	
計	6目	22科	43種	10種	18種	16種	9種	2種	20種	39種
				20 個体	88 個体	56 個体	15 個体	2 個体		

注) 1. 分類群及び種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。  
 2. 外来種(コジュケイ、ドバト、ガビチョウ)はリストの末尾に示し、目名、科名がリスト内で重複した際は括弧書きにして区別した。

表 5-2-1-10-29 (5/6) ルート・地点別確認個体数一覧 (4月)

番号	目名	科名	種名	ルートセンサス			定点		直接観察		
				R-1	R-2	R-3	P-1	P-2	実施 区域	周辺	
1	キジ	キジ	キジ		1			1		○	
2	カモ	カモ	カルガモ							○	
3	ハト	ハト	キジバト			4		1		○	
4	カツオドリ	ウ	カワウ		1			6	○	○	
5	ペリカン	サギ	アオサギ							○	
6	タカ	タカ	トビ	1	1		1	2	○	○	
7			オオタカ		1						
8			ノスリ								○
9	フクロウ	フクロウ	フクロウ						○		
10	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ			1				○	
11	キツツキ	キツツキ	コゲラ	3	1		2	1	○	○	
12			アオゲラ	2		1	1	1	○	○	
13	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ							○	
14	スズメ	モズ	モズ						○		
15		カラス	ハシボソガラス	13		1					○
16			ハシブトガラス	2	2	4	2	3	○	○	
17		シジュウカラ	コガラ	1							
18			ヤマガラ	4	3		2	3	○	○	
19			ヒガラ		3					○	○
20			シジュウカラ	6	8	1	1	3	○	○	
21		ツバメ	ツバメ							○	
22		ヒヨドリ	ヒヨドリ	24	16	5	12	21	○	○	
23		ウグイス	ウグイス	20	28	2	3	9	○	○	
24			ヤブサメ	1	2						○
25		エナガ	エナガ	2	2		2		○	○	
26		メジロ	メジロ	20	15	1	3	4	○	○	
27		ムクドリ	ムクドリ								○
28		ヒタキ	シロハラ	3					1		○
29			アカハラ	1	1				1		○
30			ツグミ								○
31			ルリビタキ						1	○	
32			ジョウビタキ								
33		スズメ	スズメ			4	4		○	○	
34		セキレイ	キセキレイ			4					○
35	ハクセキレイ				2	1		○	○		
36	セグロセキレイ									○	
37	アトリ	カワラヒワ	2				1		○	○	
38		ベニマシコ	1						○	○	
39		ウン								○	
40		シメ			3					○	
41	ホオジロ	ホオジロ	3	8		2	3	○	○		
42		アオジ	6	6	1		1				
43	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	7	15	1	3	14	○	○	
44	(ハト)	(ハト)	ドバト							○	
45	(スズメ)	チメドリ	ガビチョウ	5	6	1	1	1	○	○	
計	11目	25科	45種	21種	19種	15種	16種	19種	27種	36種	
				127 個体	121 個体	33 個体	41 個体	77 個体			

注) 1. 分類群及び種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。  
 2. 外来種(コジュケイ、ドバト、ガビチョウ)はリストの末尾に示し、目名、科名がリスト内で重複した際は括弧書きにして区別した。

表 5-2-1-10-29 (6/6) ルート・地点別確認個体数一覧 (5月)

番号	目名	科名	種名	ルートセンサス			定点		直接観察		
				R-1	R-2	R-3	P-1	P-2	実施 区域	周辺	
1	キジ	キジ	キジ						○		
2	カモ	カモ	カルガモ					1		○	
3	ハト	ハト	キジバト		1					○	
4	カツオドリ	ウ	カワウ				1				
5	ペリカン	サギ	ミゾゴイ						○		
6			アオサギ								○
7	チドリ	カモメ	オオセグロカモメ							○	
8	タカ	タカ	トビ		1			2	○	○	
9			サシバ							○	○
10	フクロウ	フクロウ	フクロウ						○	○	
11	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ							○	
12	キツツキ	キツツキ	コゲラ	2	5	1	2	2	○	○	
13			アオゲラ	1						○	○
14	スズメ	カラス	ハシボソガラス			4				○	
15			ハシブトガラス	4	1	4	3	5	○	○	
16		シジュウカラ	ヤマガラ	1	4	1	1	4	○	○	
17			シジュウカラ	3	2				○	○	
18		ツバメ	ツバメ			1	2	8		○	
19		ヒヨドリ	ヒヨドリ	1	3	1	1	3	○	○	
20		ウグイス	ウグイス	11	10	3	3	3	○	○	
21			ヤブサメ							○	○
22		エナガ	エナガ					2	○	○	
23		ムシクイ	センダイムシクイ							○	
24		メジロ	メジロ	8	4	4	3	2	○	○	
25		ムクドリ	ムクドリ			5				○	
26		ヒタキ	シロハラ	1						○	○
27			アカハラ								○
28			キビタキ								○
29			オオルリ							○	○
30		スズメ	スズメ			9	4		○	○	
31		セキレイ	キセキレイ			1					
32			ハクセキレイ			1	1		○	○	
33			セグロセキレイ								○
34		アトリ	カワラヒワ			2	1		○	○	
35			シメ	1					○	○	
36		ホオジロ	ホオジロ	3	11	1	6	2	○	○	
37			アオジ				1				
38			クロジ	2							○
39		(キジ)	(キジ)	コジュケイ		3			2	○	○
40		(スズメ)	チメドリ	ガビチョウ			1				○
計		11目	25科	40種	12種	11種	15種	13種	12種	2種	14種
					38 個体	45 個体	39 個体	29 個体	36 個体		

注) 1. 分類群及び種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。  
 2. 外来種(コジュケイ、ガビチョウ)はリストの末尾に示し、目名、科名がリスト内で重複した際は括弧書きにして区別した。

c) 爬虫類

i 生息確認種

確認種は、表5-2-1-10-30に示すとおりである。なお、表中には、既存資料調査による確認種も記した。

現地調査における確認種は、合計2目6科8種が確認された。

実施区域内及びその周辺の草地や林道でトカゲ、カナヘビが確認された。実施区域の周辺の草地では、(シマヘビの成体1個体及び) マムシの幼体1個体が確認され、林道でシマヘビの脱皮殻及びアオダイショウ幼体の死骸が確認された。また、麓にある『横須賀しょうぶ園』の池でクサガメとアカミミガメが確認された。

表 5-2-1-10-30 爬虫類確認種

番号	目名	科名	種名	文献	調査時期				調査範囲			重要種		
					夏季	秋季	早春	春季	実施区域 <sup>*4</sup>				周辺	
					6月	10月	3月	5月	①	②	③			
1	カメ	イシガメ	クサガメ	●	○	○						○		
2			イシガメ	●									○	
3		ヌマガメ	アカミミガメ			○	○					○		
4	トカゲ	ヤモリ	ヤモリ	●										
5		トカゲ	トカゲ	●				○		○			○	
6		カナヘビ	カナヘビ	●	○	○	○	○	○	○		○		
7		ヘビ	タカチホヘビ	●										
8			シマヘビ	●		○							○	○
9			アオダイショウ <sup>*1</sup>	●									○	○
10			シロマダラ	●										
11			ヒバカリ	●										○
12			ヤマカガシ <sup>*2</sup>	●									○	○
13		クサリヘビ	マムシ	●	○								○	○
合計	2目	7科	13種	12種	3種	4種	2種	2種	1種	2種	0種	7種	7種	

- 注) 1. アオダイショウは、鳥類4月調査において確認した。  
 2. ヤマカガシは、昆虫類6月調査において確認した。  
 3. 別項目調査中の確認種を含む。  
 4. \*実施区域 ①：廃棄物処理施設、②：宅地の造成、③：発生土処分場  
 5. 分類群及び種名は「日本産野生生物目録 脊椎動物編」(平成5年、環境庁)に従った。

ii 確認状況

各種の確認状況は、以下に示すとおりである。

○クサガメ

夏季及び秋季に、実施区域の周辺の『横須賀しょうぶ園』の池で各1個体が確認された。

○アカミミガメ

秋季及び早春季に、実施区域の周辺の『横須賀しょうぶ園』の池で1～2個体が確認された。

○トカゲ

春季に、実施区域（宅地の造成）の林道で幼体2個体が確認された。

○カナヘビ

夏季に、実施区域内及びその周辺の樹林内で成体が確認された。

秋季に、実施区域内（宅地の造成）で幼体1個体が確認されたほか、実施区域の周辺で成体及び幼体が確認された。

早春季に、実施区域内（宅地の造成）で成体1個体が確認されたほか、実施区域の周辺で成体が確認された。

春季に、実施区域（宅地の造成）及びその周辺で成体が確認された。

○シマヘビ

秋季及び春季に、実施区域の周辺で脱皮殻と成体が確認された。

○ヤマカガシ

昆虫類6月調査において、実施区域の周辺で死骸が確認された。

○アオダイショウ

鳥類4月調査において、実施区域の周辺で幼体の死骸が確認された。

○マムシ

夏季に、実施区域の周辺の草地で幼体1個体が確認された。

d) 両生類

i 生息確認種

確認種は、表5-2-1-10-31に示すとおりである。なお、表中には、既存資料調査による確認種も記した。

現地調査における確認種は、合計1目3科4種が確認された。

両生類は、実施区域内（宅地の造成）の廃棄物処理施設北東側の窪地付近からアマガエルの鳴き声を確認された。実施区域内（発生土処分場）の草地では、ニホンアカガエルの幼体が1個体確認されたほか、シュレーゲルアオガエルの鳴き声も確認された。

実施区域の周辺では、実施区域内（発生土処分場）の東側に位置する池でヤマアカガエルとシュレーゲルアオガエルが確認された。また、南西側の産業廃棄物処分場の上流側の沢や多自然型水路等でヤマアカガエルの卵塊が確認された。

表5-2-1-10-31 両生類確認種

番号	目	科	種名	文献	調査時期				調査範囲			重要種		
					夏季	秋季	早春	春季	実施区域				周辺	
					6月	10月	3月	5月	St.1	St.2	St.3			
1	サンショウウオ	サンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	●									○	
2		イモリ	イモリ	●									○	
3	カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●									○	
4		アマガエル	アマガエル <sup>*1</sup>	●			○		○					
5		アカガエル	ニホンアカガエル		●	○	○					○	○	○
6			ヤマアカガエル		●	○	○	○					○	
7			トノサマガエル		●									○
8			ウシガエル		●									
9			ツチガエル		●									
10		アオガエル	シュレーゲルアオガエル		●	○			○			○	○	○
合計	2目	6科	10種	10種	3種	2種	2種	1種	1種	0種	2種	3種	7種	
											4種			

注) 1. アマガエルは、昆虫類4月調査において確認した。

2. 別項目調査中の確認種を含む

3. 実施区域 ①：廃棄物処理施設、②：宅地の造成、③：発生土処分場

4. 分類群及び種名は「日本産野生生物目録 脊椎動物編」（平成5年、環境庁）に従った。

## ii 確認状況

各種の確認状況は、以下に示すとおりである。

### ○アマガエル

早春季及び昆虫類4月調査において、実施区域（宅地の造成）の林縁で鳴き声が確認された。

### ○ニホンアカガエル

夏季に、実施区域内（発生土処分場）の草地で幼体1個体が確認された。

秋季に、実施区域の周辺の林道沿いで成体1個体が確認された。

### ○ヤマアカガエル

夏季に、実施区域の周辺の池で幼生1個体が確認された。

秋季に、実施区域の周辺の林道沿いで成体2個体が確認された。

早春季に、実施区域の周辺の池、水溜り、溝、用水路で卵塊が確認された。

### ○シュレーゲルアオガエル

夏季及び春季に、実施区域の周辺の池などで鳴き声が確認された。

春季に、実施区域内（発生土処分場）及び周辺域の池で鳴き声が確認された。



e) 昆虫類

i 生息確認種

確認種は、合計19目218科924種であった（表5-2-1-10-32）。目別では、コウチュウ目47科322種、チョウ目35科140種、カメムシ目32科139種、ハエ目38科107種、ハチ目21科101種等が多かった。確認種の多くは分布域の広い種で、神奈川県から低山地に普通に生息する種が多かった。

季節別では、6月に、ウラナミアカシジミ、アカシジミ、ゲンジボタル等が確認された。8月に、セミ類、クワガタムシ類、カミキリムシ類等の樹林に生息する種を中心に、トンボ類やバッタ類、コガネムシ類などの草地に生息する種も確認された。10月に、カメムシ類、バッタ類等が多く確認された。4月に、ジョウカイボン類、ハムシ類、ハバチ類等や成虫で越冬するツチイナゴ、キタキチョウ等が確認された。5月に、ハナムグリ類、ハナアブ類、ハナバチ類等の訪花性の種が多く確認された。

表5-2-1-10-32 昆虫類分類群別の確認科数・種数（現地調査）

目名	調査時期						合計	
	初夏	夏	秋	早春	春	初夏	科数	種数
	6月	8月	10月	4月	5月	6月		
トビムシ		1	5		3		5	5
イシノミ		1	1		1		1	1
カゲロウ						1	1	1
トンボ	7	12	5		1	5	7	21
カワゲラ				2	1		2	2
ゴキブリ	4	3	3	1	2	1	2	5
カマキリ	1	2	4				1	4
シロアリ					1		1	1
バッタ	19	30	39	3	9	13	13	52
ナナフシ	1	2			1	1	1	2
ハサミムシ	2	1	1	3	2	1	1	3
カメムシ	40	65	66	14	29	43	32	139
アミメカゲロウ	4	6	3	2	1	5	6	13
コウチュウ	130 <sup>注)</sup>	95	66	35	99	98	47	322
ハチ	45	44	40	29	35	36	21	101
シリアゲムシ	1	1	1	1	1	1	1	1
ハエ	41	32	31	31	43	31	38	107
トビケラ		4	1	1			3	4
チョウ	51	48	43	24	37	58	35	140
19目	346種 <sup>注)</sup>	347種	309種	147種	266種	294種	218科	924種

注) ホタル確認調査結果のゲンジボタルを含める。

## ii 確認状況

現地調査により確認された種の目別の生息確認状況は、以下に示すとおりである。

### ○トビムシ目

5科5種が確認された。

### ○イシノミ目

1科1種が確認された。実施区域内及びその周辺の樹林林床での確認例が多かった。

### ○カゲロウ目

フタスジモンカゲロウの1科1種が確認された。ベントス調査でも確認されており、実施区域の周辺の沢沿いで多数確認された。

### ○トンボ目

7科21種が確認された。確認した種はトンボ科が多く、幼虫が止水性のシオカラトンボ、ウスバキトンボ、アキアカネ等が広範囲で確認された。幼虫が流水性のアサヒナカワトンボ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、ミルンヤンマ等が沢沿いで確認された。

### ○カワゲラ目

2科2種が確認された。実施区域（宅地の造成）及び（発生土処分場）の林内から林縁にかけて確認された。

### ○ゴキブリ目

2科5種が確認された。実施区域内及びその周辺で主に林床の落葉下で確認された。

### ○カマキリ目

1科4種が確認された。草地を中心として、オオカマキリが比較的多く確認された。

### ○シロアリ目

ヤマトシロアリの1科1種が確認された。実施区域の周辺の石の下に生息していた。

### ○バッタ目

13科52種が確認された。草地では、エンマコオロギ、カンタン等のコオロギ類、ツコムシ、ヒメギス等のキリギリス類、ショウリョウバッタ、ヒナバッタ、ツチイナゴ等のバッタ類が確認された。樹林では、コロギス、クチキコオロギ、ヤブキリ、タンザワフキバッタ等が確認され、また、市街地の樹木等にはアオマツムシやカネタタキなどが生息していた。

### ○ナナフシ目

1科2種が確認された。主に実施区域内及びその周辺の落葉樹広葉樹葉上で確認

された。

#### ○ハサミムシ目

1科3種が確認された。ハマベハサミムシとヒゲジロハサミムシは倒木や石の下、キアシハサミムシは、林縁の葉上で確認された。

#### ○カメムシ目

32科139種が確認された。確認種は草地性の種が多く、ヨコバイ類、ハマベアワフキ、ナガカメムシ類、ヘリカメムシ類、マルカメムシ等が実施区域内（宅地の造成・発生土処分場）の草地で確認された。樹林性の種は、セミ類、アカスジキンカメムシ、ツノカメムシ類等が確認されたほか、林床では、ナガカメムシ類やツチカメムシ類が確認された。また、実施区域の周辺の沢や池等では、アメンボ類が生息していた。

#### ○アミメカゲロウ目

6科13種が確認された。実施区域内及びその周辺の林縁での確認が多かったが、ウスバカゲロウは林内で、ヤマトクロスジヘビトンボは沢沿いで確認された。

#### ○コウチュウ目

目別では最も多い47科322種が確認され、樹林から草地、市街地に至る各環境において多くの種が生息していた。草地では、アシミゾナガゴミムシ、セアカヒラタゴミムシ等のゴミムシ類、マメコガネ、コメツキムシ類、イタドリハムシ、クロトゲハムシ等のハムシ類が確認された。林縁では、ハンミョウ類、ジョウカイボン類、ラミーカミキリやヒロオビミドリトラカミキリ等のカミキリムシ類のほか、ミズキ等の花にハナムグリ類、カミキリモドキ類、クロフナガタハナノミ、トラカミキリ類等が訪花していた。樹林では、オオヒラタシデムシ、ヤマトタマムシやナガタマムシ属等のタマムシ類、ベニヘリテントウ、オバボタル、ミヤマカミキリ、ゾウムシ類等が確認された。また、水域に生息する種であるゲンゴロウ類やガムシ類が、実施区域の周辺の沢等で確認された。

#### ○ハチ目

21科101種が確認された。確認種は草地性の種が多く、ハバチ類やツチバチ類、トビイロケアリ、アナバチ類等が草地や林縁で確認されたほか、ヒゲナガハナバチ類、ミツバチ類等が各種の花に訪花していた。樹林性の種では、スズメバチ類、コマルハナバチ等が確認された。

#### ○シリアゲムシ目

ヤマトシリアゲの1科1種が確認された。林縁を中心に確認され、個体数は多かった。

#### ○ハエ目

38科107種が確認された。確認種は、花に集まる訪花性の種が多く、ナミハナアブ、アシブトハナアブ等のハナアブ類や、ビロウドツリアブ、ツマグロキン

バエ等が主に草地や林縁で確認された。また、吸血性のアブ類、他の昆虫類を捕らえるムシヒキアブ等が確認されたほか、ガガンボ類、ミズアブ類、ヒゲナガヤチバエ等の水辺を好む種も実施区域の周辺の沢沿いや実施区域内(発生土処分場)のぬかるみ付近で確認された。

#### ○トビケラ目

3科4種が確認された。確認種の多くは、幼虫が流水性の種で、実施区域内(発生土処分場)のライトトラップでの確認が多かった。

#### ○チョウ目

35科140種が確認された。チョウ類は8科45種が確認され、草地性のイチモンジセセリ、モンキチョウ、ベニシジミ、ツマグロヒョウモン、ヒメウラナミジャノメ等が実施区域内(宅地の造成・発生土処分場)の草地や林縁を中心に確認された。樹林性の種は、オナガアゲハ、モンキアゲハ、アカシジミ、ムラサキシジミ、コジャノメ、サトキマダラヒカゲ等が確認された。ガ類は27科95種が確認され、草地ではシロオビノメイガ、マエアカスカシノメイガ、アカマダラメイガ等のメイガ類やカノコガが確認された。林縁では、イヌビワハマキモドキ、ヒロオビトンボエダシャク、ホタルガのほか、オビガ、マイマイガ、クワゴマダラヒトリ、アヤモクメキリガ等の幼虫も確認された。樹林内では、キガシラオオナミシャク、アカエグリバ、オオシラホシアツバ等が確認された。

iii ライトトラップ調査

確認状況の概要は、表5-2-1-10-33に示すとおりである。

調査期間を通じて、7目45科85種447個体が確認された。目別にみると、コウチュウ目が最も多く11科30種、次いでハエ目の10科16種であった。ハネカクシ類等のコウチュウ目のほか、ユスリカ類等が確認された。

地点別の確認種数は、表5-2-1-10-34に示すとおり、T-1が21科31種、T-3が36科64種であった。

表5-2-1-10-33 ライトトラップ調査による確認科数・種数(目別)

目名	科数	種数	主な確認種
バッタ	4	4	コロギス、タンボコオロギ、カネタタキ
カメムシ	8	12	アオバハゴロモ、ヒゲナガカメムシ、ヒメホシカメムシ
コウチュウ	11	30	ミズギワゴミムシ科の数種、ハネカクシ科の数種、タテスジナガドロムシ
ハチ	2	6	キイロシリアゲアリ、アズマオオズアリ
ハエ	10	16	ガガンボ科の一種、ユスリカ科の数種、ショウジョウバエ属の一種
トビケラ	2	3	ウルマーシマトビケラ
チョウ	8	14	カレハチビマルハキバガ、アカマダラメイガ、シバツトガ、スジキリヨトウ
合計7目45科85種447個体			

表5-2-1-10-34 ライトトラップ調査による確認科数・種数及び個体数(地点別)

目名	T-1			T-3		
	科数	種数	個体数	科数	種数	個体数
バッタ	1	1	1	3	3	3
カメムシ	2	2	4	8	11	23
コウチュウ	5	8	8	10	25	152
ハチ	1	4	20	2	2	2
ハエ	9	11	58	5	10	131
トビケラ				2	3	8
チョウ	3	5	5	6	10	32
合計	21	31	96	36	64	351

iv ベイトトラップ調査

確認状況の概要は、表5-2-1-10-35に示すとおりである。

調査期間を通じて、10目45科94種30,607個体が確認された。目別にみると、コウチュウ目が最も多く13科37種、次いでハチ目の3科17種等であった。アオオサムシ、オオヒラタシデムシ、ハネカクシ類等のコウチュウ類を中心に、その他、アズマオオズアリ、アメイロアリ等のアリ類が多く確認された。

地点別の確認種数は、表5-2-1-10-36に示すとおり、T-2が最も多い32科53種、次いでT-1が29科50種であった。

表5-2-1-10-35 ベイトトラップ調査による確認科数・種数(目別)

目名	科数	種数	主な確認種
トビムシ	5	5	ツチトビムシ科の一種、アヤトビムシ科の一種
イシノミ	1	1	イシノミ科の一種
ゴキブリ	1	3	モリチャバネゴキブリ、キスジゴキブリ
バッタ	5	12	シバズ、エンマコオロギ、クマスズムシ
ハサミムシ	1	1	ヒゲジロハサミムシ
カメムシ	4	5	オオモンシロナガカメムシ、ヨコヅナツチカメムシ、ツチカメムシ
コウチュウ	13	37	アオオサムシ、ミイデラゴミムシ、オオヒラタシデムシ、ハマベオオヒメサビキコリ
ハチ	3	17	アズマオオズアリ、トビイロシワアリ、アメイロアリ
ハエ	11	11	ヒラヤマシマバエ、ショウジョウバエ属の数種
チョウ	1	1	ヤガ科の一種
合計10目45科94種30,607個体			

表5-2-1-10-36 ベイトトラップ調査による確認科数・種数及び個体数(地点別)

目名	T-1			T-2			T-3		
	科数	種数	個体数	科数	種数	個体数	科数	種数	個体数
トビムシ	5	5	45	4	4	36	3	3	40
イシノミ	1	1	2	1	1	1			
ゴキブリ	1	2	52	1	2	240	1	3	552
バッタ	3	4	6	3	6	27	5	10	75
ハサミムシ	1	1	1	1	1	3			
カメムシ	2	2	15	3	3	11	1	1	1
コウチュウ	8	17	46	9	17	332	5	11	53
ハチ	2	12	9,683	2	11	3,156	1	8	16,145
ハエ	5	5	18	8	8	26	6	6	13
チョウ	1	1	28						
合計	29	50	9,896	32	53	3,832	22	42	16,879